

卒業生の皆さん、御卒業おめでとうございます。

皆さんは、保護者や地域の方々、先生方に支えられながら、様々な経験を積み重ね、心身共に大きく成長し、本日、九年間の義務教育を修了します。

これまで、人を思いやって行動してきたことや、自分を高めるために取り組んできたことなどは、生きていく上で、大きな力となります。これからも、夢や目標に向かって努力を続け、お世話になった方々への感謝の気持ちを忘れず、たくましく成長することを願っています。

昨年、日本で開催されたラグビーワールドカップでは、日本代表が初めてベスト8進出を果たし、日本中に勇気と感動を与えてくれました。

ワールドカップの歴史において、日本と世界との力の差は歴然としており、日本は、それまでわずか一勝しかしていませんでしたが、厳しい練習を積み重ね、前回の大会では、予選リーグで三勝を挙げるまでの力をつけました。それでも強豪スコットランドに大差で敗れ、決勝トーナメントに進むことができず、選手たちは、世界にも通用する体力と技術を身に付けるため、これまで以上に過酷な練習に打ち込むことを決意し、新たなスタートを切ったのです。

しかし、海外の出身者も多く、強い個性をもった選手たちは本来の力を出せず、思うような結果を残せない時期が続きました。そこで、チームを指揮するヘッドコーチは、一人ひとりがどんなに力をつけても、チームがひとつにならなければ勝つことはできないと考え、「ワンチーム」をスローガンに掲げました。

選手たちは、年間二百日を超える合宿で生活を共にしながら、文化や習慣の違いを埋め、朝から晩まで泥だらけになってボールを奪い合い、自分たちを限界まで追い込みました。同時に、互いの良さを十分活かさきれていないと考え、何度もミーティングを重ね、時には衝突しながら、それぞれがもつ強みを活かす方法を工夫し、全員で自分たちの戦い方を確立していきました。

こうして選手たちは、強い自信と日本代表としての誇りをもってワールドカップに臨み、スコットランドをも打ち破り、ついに悲願のベスト8進出を果たしたのです。このような活躍ができたのは、チームドクターやトレーナー、栄養士など、多くの人々の支えがあったからです。

皆さんも、ラグビー日本代表のように、困難に遭っても決してあきらめず、夢や目標の実現に向けて努力を続ける人になってください。そして、周囲に支えられていることに感謝し、皆さん自身も人や社会のために行動できる人になることを願っています。

結びに、保護者の皆様、お子様の御卒業、誠におめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

また、今日まで御指導くださいました教職員並びに地域の皆様に、深く感謝申し上げます、あいさつといたします。

宇都宮市教育委員会